

NETWORK

ねっとわあく

特集

●表紙イラスト/川口智子

探訪・団塊の世代

～仕事で・地域で・家庭で～

「男女共同参画と団塊の世代を考える」



2005.3.1.
vol.46

特集

探訪・団塊の世代

～仕事で・地域で・家庭で～
「男女共同参画と団塊の世代を考える」

日本の総人口の中で最大の層を構成するいわゆる「団塊の世代」。この世代の家庭で育った子どもたち世代が、いま家庭を持ち親となりつつあります。これからの男女共同参画社会を考えると、また高齢社会を展望するときに、彼ら「団塊の世代」の動きや考えを無視することはできません。

今回の特集では「団塊の世代」の特に男性たちの現在に焦点を当て、彼らの旗手である二人の著名人や県内企業の経営者に見られる特色や、県内にお住まいの普通の「団塊の世代」とその前後の世代の方へのインタビューを通して、「団塊の世代」と男女共同参画を考える材料を提示したいと考えました。(編集部)



コラム
だんかい

団塊の世代とは

「団塊の世代」とは、堺屋太二が著書「団塊の世代」で命名したもので第二次大戦後のベビーブーム、1947～51年(昭和22～26年)頃までに生まれた人々です。より厳密な定義では、1947～49年にかけての3年間に生まれた人々を指します。

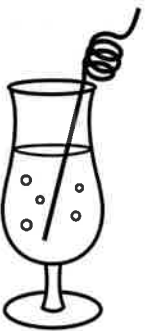
津波のような塊となつて時代を動いていったため、彼らの動向は良くも悪くも日本の社会に大きな影響を与えてきました。今のアニメにつながるマンガ文化を花開かせ、アメリカのテレビのホームドラマの影響を受けつつ育ち、ジパンをカジュアルに着こなし始め、アンングラ文化を花咲かせ、音楽の面ではビートルズ世代でグループサウンズに熱狂し、フォークソングや吉田拓郎、井上陽水、松任谷荒井(由実)などのニューミュージックを支持しました。全共闘世代と呼ばれることもあります。結婚してからは、ニューファミリーと呼ばれる家族のスタイルを生み出しました。

団塊女性が

「男女共同参画について

思っていること、

感じていること、考えていること」



①お互いに仕事を持っているので、男女の区別なく家事をやるようにしています。
主人も、その事を当然と思っている様です。町内の行事等も、積極的に主人に出てもらっています。

②男とか女とかではなく人として今自分がやらなければならない事を精一杯出来る事が大事で、それは生きていく上で自然な役割として巡ってくるのだと思います。目の前でお腹をすかして泣いている赤ちゃんがいたしたら人間であればだれでもミルクをあげようと思うものではないかと思っています。

③まだまだ私たちの世代では、男の仕事、女の仕事と分けて考えてしまいます。特に家事は、男の人は女がやるのがあたりまえと思いい、女はついついやつてしまいます。男も女も、お互いを思いやる気持ちをもって、共にやっつていこうとするように社会全体がなつてほしいと思います。それには、男も女も常に前向きに生活してい

かなければ、世の中変わつていかないと思います。男の人がスーパーで買い物している姿をみても、何も感じないようになりまして。あたりまえのことになつてきているように思います。

④愛する家族と、生きがいのある仕事の両方を手に入れたとき、女性が一人で担う家事がネックでした。男女参画の一番進まない領域は家庭ではないかと思ひます。私の長年の失敗は「してくれない」と愚痴や不満を夫にぶつけたこと。うまくいっている人たちは「してくれるとうれしい」と肯定的に交渉する術をもっていると感じました。

⑤医療の職場で働いていますが女性の外科系ドクターも多くなり、ナースも男性が多くなつて来いています。同等の立場で仕事をし、家庭も育児ももつと話し合い分担したいものです。管理職にもつと女性を増やし対等に扱つて欲しいものです。

(静岡県内100名の団塊世代女性のアンケートより。調査結果はP11をらんくください。)

団塊の世代生まれる

- 45年 敗戦
- 47年 登呂遺跡(弥生時代)発掘始まる。
- 初の市町村議会議員選挙で県内に31名の女性議員が誕生
- 48年 岳南鉄道開通
- 49年 静岡大学開校
- 50年 熱海で大火、1000余戸が消失。
- 51年 県立静岡女子短期大学、浜松短期大学が開校
- 52年 ラジオ静岡(SBS)開局
- 53年 静岡薬科大学(現県立大学薬学部)開校
- 54年 第五福竜丸がビキニ環礁で水爆被害に遭う
- 55年 蛸塚遺跡(縄文時代)発掘開始
- 56年 佐久間ダム完工
- 57年 NHK静岡放送局テレビ放送開始。井川ダム完工。静岡国体開催
- 58年 狩野川台風で死者・行方不明1040人の被害
- 61年 伊豆急全線開通。

- 静岡県婦人会館が開館
- 62年 ボーイスカウト・アジアジャンボリー御殿場で開催
- 63年 加藤とよさん、静岡県議会女性議員の第1号となる
- 64年 東海道新幹線全線開通。東京オリンピック
- 66年 BOAC機富士山太郎坊に墜落

団塊の世代成人に

- 67年 静岡県立女子大学(現県立大学)開校
- 68年 金婚老事件。テレビ静岡開局
- 69年 東名高速道路全線開通
- 70年 県立中央図書館開館。
- 田子の浦でヘドロ問題が浮上。大阪万博
- 71年 世界ジャンボリー朝霧で開催
- 74年 浜松医科大学開校。静岡清水地区七夕豪雨。
- 中電浜岡原子力発電所試験運転開始
- 76年 駿河湾巨大地震説発表
- 77年 静岡県労働福祉課に婦人問題担当窓口設置
- 79年 東名日本坂トンネルで事故
- 80年 静岡駅前ガス爆発事故。

- 静岡県生活環境部に婦人対策室設置
- 81年 中国浙江省と静岡県が姉妹都市提携
- 82年 台風10号で東海道線富士川鉄橋が流される
- 83年 伊豆熱川温泉プリンスホテル火災。
- FM静岡本放送開始。
- つま恋のレストランでガス爆発事故。

静岡県生活環境部に婦人青少年課設置

静岡の頃
その

ビートたけし、弘兼憲史を通して見た

団塊の世代の男性が 社会にあたえた影響

美しく尊厳ある日本への道に、男女共同参画の考えを生かす。

「今日は、「団塊の世代の男性が社会にあたえた影響」について男女共同参画の視点も絡めておうかがいたいと思うのですが、団塊の世代の男性とはどういう人たちでどんな特徴があるのですか？有名人はどなたを思い浮かべますか？」

小島 有名人なら、タレントでビートたけし、漫画家で弘兼憲史氏が思い浮かびます。団塊の世代は昭和22年〜24年生まれの人々を指しますが、どちらも昭和22年生まれです。このふたりの行動、価値観、考え方に団塊の世代が生まれ育った時代背景がよく反映されていると私は感じます。

以前、テレビ番組で、ビートたけしは、「まだ幼かった頃、親父と列車に乗っていたら、突然米兵がやってくるので自分とぶつかった。すると親父がビククリしてその場で土下座して米兵に謝った。子どもながらに、何だこれはと驚いた」といつて苦笑していました。つまり、団塊の世代の幼少の時代はまだ米軍占領下であって、アメリカへの強い恐れと憧れというアンビバレントな感情を持っている、これがひとつの特徴だと思います。

先日、別のテレビ番組で、戦後の大事件の検証をしていましたが、その中で、田中角栄元首相がエネルギー資源開発で中国、ロシアに近寄ったためアメリカの逆鱗に触れ、ロッキード事件で失脚させられたという裏話が出ていました。「こ

れではアメリカの言いなりで日本はいつまで経っても自立できないのではないか」と一人のゲストが振ったところ、ビートたけしは、「いえボクはアメリカ好きですが、逆らいません。ほらこのように頭髪も金髪ですし」と自分の頭髪を指さしながらおどけていました。

イチローや松井やアテネオリンピックで活躍したスポーツ選手のように、日本が経済大国とかジャパンズNO.1とかいわれた時代に幼少年期を迎えた20、30代の世代とはかなり異なると思います。日本はいつまでアメリカの占領下で、どういう時代だったのですか？」

小島 昭和27(1952)年の4月です。それまで、日本からの輸出品は、「Made in Occupied Japan」と刻印されていました。団塊の世代は敗戦後の社会で親が苦勞しているのを見て育ち、日本が大変貧しかった時代を体験しています。現在は豊かになったといってもその格差を体感している、これも団塊の世代のひとつの特徴です。

昨年話題になった崔洋一監督の「血と骨」も、舞台は在日朝鮮社会ですが、当時の、長屋で皆がごちゃごちゃになって生活していた日本の貧しい時代を描いていて、その時代を実際に体験しているビートたけしの演技が自然だったのも納得がいきます。団塊世代の特徴のひとつとして、「群れたがる」ことが挙げられますが、



小島茂さん

(こじましげる) 静岡県立大学経営情報学部教授
1985年、カリフォルニア大学バークレイ校で社会学博士号取得。守備範囲は、国際コミュニケーション、まちづくり、情報デザイン、生き方探し等幅広い。メルマガ「日本の姿と心」や地域情報誌「草雉ネット」などを発行し、実践創作活動を行っている。著書に、「自分と出会う、生き方探し」(学文社 2004)など。

このごちゃごちゃした感覚を団塊世代はずっと持ち続けているのではないのでしょうか。

「その後、団塊の世代はどう成長して行ったのですか？」

小島 団塊の世代は、昭和30年代に始まった日本の高度経済成長期といつしよに成長しますので、地方の中学校や高校を出た人たちが、東京や大阪にどっと集団就職します。敗戦当時、日本の人口の6割が農業従事者でしたので、ここで挙に大都市圏への人口移動が進みました。団塊の世代には地方と都会の両方を体験している人が多いと考えられます。

当時、大学進学率は今ほど高くなかったのですが、家の事情や時代の意識から、優秀でありながらも大学へ行けなかったり、行かなかった人が大勢います。この人たちのなかにはその後、起業して社長になるなど活躍している方が少なくありません。そしてこの世代は今、定年退職を目前に控えています。

現在、私の講義には、団塊の世代のつ前の世代の人々が数名、定年退職してから社会人聴講生として参加していて、皆意欲的でとても優秀です。仕事人間から解放され空いた時間をどう使うか考えていた時、大学の聴講制度を知り決めたとこののです。団塊の世代も生涯学習意欲が強いので、定年退職後は大学に入ってくる可能性があります。大学が

その受け皿として魅力的なプログラムを提供できればの話ですが……。

「団塊の世代で大学進学をした人はどうですか？」

小島 団塊の世代で大学進学した人は、全共闘の世代といわれるように大学紛争を体験しています。ビートたけしも明治大学工学部に入り、ヘルメットをかぶって、大学紛争に参加しましたが、「オレなんかなぜこういふことをやっているのか、訳もわからずただ参加してエネルギーを発散してただけだった」と語ったことがあります。

昭和41年の東大安田講堂の攻防戦を境に、大学紛争は波が引くように急速に沈静化に向かい、その後、あれは何だったのかと多くの人が狐につままれた思いになりました。

最近、インド洋大津波災害で日本語の「sunami」が世界標準英語になったようですが、団塊の世代もDankaiという英語があるそうで、まるで団塊の世代は世代之中の「sunami」のように、大学紛争であれ第二次ベビーブームであれグループサウンズであれ、社会に大きなインパクトをあたえ、新しい流行を生み出し、それが過ぎ去った後は、跡形をはっきり残しながら静寂が戻るという現象が見られます。

「漫画家の弘兼憲史さんの方はいかがですか？」

小島 弘兼氏は、山口県出身で、早稲田大学法学部入学のため上京します。卒業後は、松下電器に就職し、3年間勤め、自分の天職を発見し、会社を辞めて漫画家になります。ただ、会社生活は弘兼氏の原点で、漫画でもビジネスの世界を追求しています。

当時、日本の電気メーカーは高度経済成長の波に乗って破竹の勢いで世界を席巻し、社内でもポストも増え、働けば働くほど収入面でも昇進面でも見返りがありました。他の業界も似たり寄ったりで、団塊の世代の男性も仕事づめの会社人間になっていきました。

弘兼氏は、退職後、こうした会社人間およびその予備軍の読者層を対象に、自分と同世代のビジネスマンを主人公にした「課長・島耕作」を書いています。

戦争中、日本には田河水泡作「のらくろ」という犬の兵隊の軍隊での出世物語漫画が大ヒットしましたが、島耕作も、課長、部長、取締役と出世していく点では似ています。ただ、庶民的な「のらくろ」と違い、島耕作は国際派エリートビジネスマンです。海外で大きな仕事をしたり、社内の派閥争いに巻き込まれながらも大抜擢されたり、恋愛を楽しんだり、ダンディで男気があり多くの団塊の世代の男性が描いて実現できなかった男のロマンを代行してくれている点を受けているようです。

—弘兼さんの実際の家庭生活はどうなんでしょうね？
小島 団塊の世代は、ニューファミリーとか友達家族とかいわれ、恋愛結婚、同世代結婚、核家族が特色で、女性も専業主婦が多いといわれますが、弘兼氏の場合、同じ漫画家の柴門ふみさんと恋愛結婚しています。奥さんは10歳年下で、もと

は弘兼氏のアシスタントをしていました。ふたりとも流行漫画家で超多忙でしょうが、家庭生活もうまくいっているのは、同業であることや、大家族で内部のサポートも大きいのではないのでしょうか。

—先ほど、弘兼さんが日本の高度経済成長とともに歩んだビジネスマンを描いたといわれましたが、その後、日本経済はバブルに突き当たり、それが崩壊し、失われた10年とかが今なお続いています。その当たりの変化をどうとらえていらつしやいますか？

小島 最近、「希望格差の時代」（筑摩書房）という本が話題になっています。著者の山田昌広氏は、自殺が2万人台から3万人台になり、フリーターが急増し始めた平成10年を境に日本は大きく変貌したと指摘しています。

経済は製造業中心のオールドエコノミーからIT、サービス産業中心のニューエコノミーにシフトし、それにもなつて、社会も安定・安心社会から不安定ナリスク社会に変貌した。そして、かつて中流階層が主流であった日本社会はいまや勝ち組と負け組に2極分解しつつあり、しかも負け組が急増しているというのです。欧米では女性が正社員になつてから、ニューエコノミーの時代に入りましたが、日本では男女雇用機会均等法の改正ができ、また周辺にいるときにニューエコノミーの波が押し寄せてきたため、社会で活躍する女性は増えているものの、正社員は少なく、多くの女性労働者は派遣社員や契約やパートの状態です。

世代として見ると、団塊の世代の男女は勝ち組に分類されています。男性は終身雇用・年功序列の恩恵を受け、女性は専業主婦で安定した家庭生活を営むこ

とができました。家もバブル崩壊以前に入手し、ローンの返済もほぼ終わり、子育てもすでに終わっているのに、不況期の影響をもち受けて済んでいると見られています。

—反対に、団塊世代ジュニア以降の若者は負け組にふるい分けられ、フリーターやニートが増え、将来に希望が持てなくなっています。定年延長により、団塊の世代が若い世代の雇用を妨げているともいわれています。

—団塊の世代が勝ち組といつても、企業倒産やリストラの前倒しで、ホームレスになったり、自殺したり、負け組も大勢いるのではないですか？

小島 確かに、自殺者急増の多くは中年男性で、団塊の世代もふくまれていますが、東大の神野直彦氏（財政学）は、自殺者は男性に多く、女性に少ない、これでは男女共同参画社会とはいえないのではないかと皮肉っているくらいです。

また、団塊の世代、団塊ジュニア世代といふのはあくまで二つの目安で相対的な比較にすぎません。プロ野球参入で名を馳せたライブドア社長の堀江氏は、団塊ジュニアに属する勝ち組です。ただこの勝ち組は勝てば大きいけれども数は減っている、ということです。

勝ち組とされる団塊の世代も必ずしも安泰であるわけではなく、年金問題、リストラ、定年退職後の不安を抱えています。とくに仕事・筋だった男性は、これからどう自分や家族や地域と向き合っていくのかわからないのか、迷っている人も多いのではないのでしょうか。

—弘兼さんはその辺どうとらえているのですか？

小島 弘兼氏も、団塊の世代の先を見越

して、今では、「黄昏流星群」という作品で、定年退職者をふくめ中高年の恋愛や生き方を扱っています。ビジネスマンだけでなくあらゆる職業の男女が登場します。男性は、仕事人間として置き去りにしてきた、これまで価値のなかったことに価値を見つけ、それを実現しようとしています。女性も、家庭人間として置き去りにしてきたこれまで価値のなかったことに価値を見つけ、それを実現しようとしています。そうした一人が本当の巡り会いをします。

—希望格差社会で、これからますます負け組が増え日本は益々暗くなつていくのでしょうか？

小島 私たち二人ひとりは何億の精子の中からたったつ卵子と結合し生まれた勝ち組です。日本というすばらしい自然や伝統文化をもち、自由に恵まれ民度の高い国に生まれたことも勝ち組です。日本人はかつて生活は貧しいけれども心は高貴といわれていました。ラフカディオハーンなど外国人が日本に魅せられたのも外的なものではなくそうした日本人の美しいところでした。日本人は戦後、団塊の世代とともに経済的価値優先でやつてきて行き詰まりました。もう一度、原点に立ち返って、日本のDNAは何か、美しくダイグニティ（編集部注：品位・尊厳）のある日本にするにはどうしたらいいか、日本人が勇気と自信と希望を取り戻すにはどうしたらいいか、真剣に考えてみる必要があるでしょう。その過程で、自分がどうしたいのかわかってくるでしょう。男女共同参画の考え方も、そうした文脈の中で生かされ、推進されていくべきでしょう。

—どうもありがとうございました。